

東日本大震災 被災地への支援活動状況

Emergency Fire Response Teams

緊急消防援助隊
市営住宅の提供
義援金物資支援



赤平市からの被災地支援

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による東日本大震災の影響は、1カ月たった今もなお、強い余震が続く、避難所生活での被災者の心的なストレスなど復興への障壁がまだまだ残る現状であります。このような状況の中、赤平市では、災害対策本部を中心に、救援並びに支援策を実施してまいりました。まず、3月31日に、市から災害見舞金として300万円をお送りしております。

そして、3月28日から4月3日までの間、第6次北海道緊急消防援助隊として3名の消防職員を現地に派遣し、被災地で救助作業をしてまいりました。さらに4月21日から4月27日までの間、第12次北海道派遣隊として5名の消防職員と救助工作車一台を現地に派遣しました。

また、被災者への市営住宅の提供も14戸用意し、現在2戸に被災者を受け入れております。義援金と物資支援につきましても、企業・団体・個人から、たくさんの方の支援をいただき、日本赤十字社へ随時、送金・輸送しているところです。今後につきましても消防職員並びに、保健師等の派遣を要請に応じ対応してまいります。

これまでの市民の皆さんの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも支援活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



▲水没した針岡地区は、田園地帯だった。



▲信号が倒壊し交通システムが不能に…。

被災地の状況
3/28
～
4/3
PHOTO
REPORT
miyagi

大震災の壮絶さを 現場で感じました

今回、緊急消防援助隊として

北海道から第6次派遣で、宮城県石巻市へ行ってまいりました。フェリーで仙台港に降り、その現実の光景の壮絶さに絶句しました。大型船が陸に乗り上げ、車は何百台単位でその辺に転がっているといった状態で、言い知れぬ不安を抱え、石巻市の針岡地区への救助活動に入りました。針岡地区は、海から5kmほど離れた田園地帯でしたが、津波の影響で、集落のほとんどが約2mも水没しており、ポンプで水を排出しながら、行方不明者の捜索を実施しました。大変な活動でしたが、捜索した期間中、北海道隊全体で、計12人のご遺体の

中村 公紀 消防司令

被災されている方々のお気持ちに少しでも応えられるよう精一杯活動してきました。



鈴木 巧介 消防士長

テレビで見ていたことと現実の状況は、感じ方がまるで違うものでした。現実をみてしまうと、自分の無力さを感じてしまいますが、できる限りの力を振り絞り、与えられた任務を遂行してきました。

発見及び収容に携わり、ご冥福をお祈りしながらご家族のもとにご遺体をお返しすることができました。しかし、まだ約1万4千名の方が行方不明であり、今後更なる支援が求められています。

被災地では、蛇口をひねると水が出るといった当たり前のことが、当たり前前にできない現実、衝撃を受けました。



西原 智洋 消防司令補



市営住宅の提供

被災地から避難されてきた方のために、市営住宅14戸を確保し、3月19日と20日に福島県から被災者世帯を受入れ、2戸の住宅を提供。

物資の支援

市民の皆さんより、募集していただきました日用品や雑貨などがたくさん集まり、窓口の空知総合振興局を通じて、随時搬入しています。

日本赤十字社へ義援金

ご協力いただいた企業・団体等

青葉団地D棟一同	西出興業(株)	西出グループ社員一同	赤平高校生徒会	赤平市薬剤師会	ヤクルト赤平一同	平岸病院博寿会職員一同	武藤工業(株)	光運寺彼岸法要参詣者一同	空知単板工業(株)	株空知ウッドテーク従業員一同	赤平建設業協会	赤平市職員一同	宮志工業(株)	宮志工業(株)宮友会一同	トルク精密工業(株)
----------	---------	------------	---------	---------	----------	-------------	---------	--------------	-----------	----------------	---------	---------	---------	--------------	------------

この他にも個人や匿名、そして義援金箱への募金も合わせて4月21日現在で、総額約1,000万円を赤平市から日本赤十字社へ送っております。

共同募金会へ義援金

町内会、団体、個人の皆さんから、4月20日現在で190万円を越える義援金が集まっております。

温かいご支援ありがとうございました。



▲現地に派遣された3名の消防職員。



▲車が積み重なりガレキと化した沿道。



▲いたるところに散在する車。